

昨年末、近所にあるお寺さんの掲示板に、次のような短文にして意味深長なことばが掲示されていました。

「わたしのものさしではかるのではない。わたしのものさしをはかるのだ」

どうです。短いけど、なるほどの文でしょう。私が研究している「多様性教育」の最重要概念、〈脱学習〉にも通じるものを感じました。で、しばらく掲示板の文字を眺め独りで頷きながら、それが私に与えてくれる少なくはないある種の感動に、思わず心の中で膝を叩いたんです。同じようなことを意味することばでも、表現によって受け取れるものが違ってきます。〈脱学習〉の説明にも、これは使えるなと思いました。

ものさしが主語で、格助詞の「で」と「を」との違いによって、はかったりはかられたりするわけです。「で」は基準や手段を、「を」は動作の対象や目的・結果を表わします。「わたし」で修飾された「ものさし」が手段になる場合と対象(目的)になる場合とでは正反対の意味になります。私の「ものさし」、つまり自己の基準や価値観といった慣れた固定観念を手段として、他者のそれを評価したり批判したりするのと、他者のそれで自己のそれを評価したり批判したりするのでは、大違いですよ。ここでは、評価や批判ではなく、「はかる」と書かれていますが、これは主語の「ものさし」に即した言い方で、自己の考え方という手段に合わせて対象(目的)を解釈する、という意味でしょう。

ですから掲示板では、他者の「ものさし」でこそ、自己の「ものさし」をはかるべきと言っているわけです。また、このことばは目的と手段の関係を言い表わしているとも思えます。「で」によって表わされた手段と、「を」によって表わされた目的との関係をどう考えるかです。今の世界で支配的な「勝った者が正義」と同種の理屈である「目的は手段を選ばず」ですが、これは良い目的達成のためにはどんな手を使っても構わないということです。しかし、これは私たちが陥りやすい錯覚ですよ。有り難い目的であると思えば思うほど、その目的成就のためには手段を選ばなければなりません。厳選されることなく卑劣な手段が用いられれば、目的に近づけば近づくほどその中身は羊質にして虎皮すが如く劣化することでしょう。使われる手段によって、掲げた目的の性質は大きく変わるのです。

「ものさし」は「わたし」で修飾されていますが、この「わたし」は私の「わたし」ではなく、誰もの「わたし」なのです。自己は、自身にとって自己であり、他者にとって自己は他者であり、その他者も他者自身から言えば自らは自己となるのですから。目的も達成されれば、それが今度は次の目的の手段となるでしょう。また手段をいろいろ選んでいるうちに、手段が目的と化す場合もあるでしょう。掲示板では、私の「ものさし」は対象であって、手段ではないと言います。しかし、このことには両面性があって、目的と手段は循環していると考えた方がいいでしょうね。

他者と自己、手段と目的などは、さまざまな契機によってそれぞれに転化し合うので、私たちはそれぞれの経験知によって、それらの「ものさし」として働く諸観念を更新していかなばなりません。旧習を正当化したり、予め失敗した場合の言い訳を用意しておく心理的傾向や現実を捉えきれない固定観念であれば〈脱学習〉という手段を使おうとも思うのですが、これまでの結果として生成している固定観念は、私たちの認識を助けたりする一方で、偏向を加えたりする場合もあるので、手段を選び目的の精度を高めるためにも、長年の研究と実践により私自身の固定観念となっている〈脱学習〉という「ものさし」をはかられざるものにしてはならないと、改めて思った次第です。再学習のチャンスを与えてくれた掲示板に……感謝。